

# 七色花

【発行者】

中国・四国中国帰国者支援・交流センター

社会福祉法人 広島県社会福祉協議会

〒732-0816 広島市南区比治山本町 12-2

TEL 082-250-0210

FAX 082-254-2464

E-mail chushikoku-center@festa.ocn.ne.jp

## 東広島・福山社会見学会

12月7日(金) 広島県の東広島市と福山市の中国帰国者を対象に社会見学会を開催しました。同じ広島県内とはいえ、普段、活動の中心となる広島市からは距離があり、なかなか行事に参加しにくい2市の帰国者と一緒に、筆の里と大和ミュージアムを訪問しました。筆の里の手描き友禅体験では、小さな布に下書きをした後、色を塗るのですが、懸命な余り時間を忘れるほどでした。大和ミュージアムでは、技術力の高さに感心させられる一方で、失われた多くの若者の命に思いを寄せ、平和の大切さを再認識し、大変意義のある見学会となりました。



手描き友禅体験  
(筆の里)



展示品の見学  
(大和ミュージアム)

## 広島県ボランティア研修会

1月11日(金)・18日(金)の二日間、広島市立白島小学校4年生を対象にボランティア研修会を開催しました。会では、中国残留孤児が満州での暮らしや自らが孤児になった経緯を涙を浮かべながら語り、その後、中国手芸のひとつ中国結びをグループに分かれて体験しました。残留孤児のおばあちゃんにゆっくり丁寧に教わる子どもたちは人懐っこく純粋でした。終了後は「シェシェ」と覚えての中国語で見送ってくれました。今後、帰国者集住地域の学校を中心に、同様の活動を行っていきたいと思います。



中国結び体験の様子

## 日本語講師研修会

1月20日(日)・21日(月) 当センターの日本語講師を対象に日本語講師研修会を開催しました。昨年度から遠隔課程に新設された「おしゃべり話題」のコース内容を中心に、中国語母語話者に特有の間違い、帰国者に教える際の注意点などを話し合いました。

「覚えられない」でも「日本語の勉強は楽しい」という高齢者、「仕事や子育てに精一杯で勉強する余裕がない」という若い世代にどう寄り添うか、一生懸命考えている先生方の姿が印象的でした。

## 広島県交流活動教室

12月17日(月)・1月21日(月)・28日(月) 当センターの受講生を対象に革細工講座を開催しました。第1回目はキーホルダーを、第2・3回目は鞆を制作しました。革を選び、デザインを決めて穴をあけ、糸の色を選んで縫い合わせるという作業はどれも楽しく、時間があっという間に過ぎました。革を縫い合わせるのは力が要ります。手芸が得意な参加者もなかなか縫い目がきれいにならず、苦戦しました。でも、最後には世界に一つしかないオリジナル作品が出来上がり、みんな大変満足した様子でした。



縫い目となる穴を開けてから



専用の糸で縫い合わせていきます

## 節分のお話し ~ 節分の豆まきのいわれ. について. 日本の昔話をご紹介します ~

昔は、二月三日の節分の日は今の様な豆まきの日ではなくて、幸せを祈りに神社やお寺へお参りに行く日だったそうです。ところが、そのお参りに行く人々を、鬼たちが襲って食べるようになったのです。それを聞いた神様が、鬼の親分を呼び出して言いました。「お前たちは、わしの所へ幸せを祈りにやってくる人間を食べているぞだな」

「はい、その通りです。しかし、昔から鬼は人間を食うもの。他の食べ物では、体に力が入りません」とすると神様は、鬼に豆粒を差し出して言いました。

「それでは、お前たちに豆をやるから、この豆を育てて実らせてみる。見事に豆が実ったなら、今まで通り人間を食べてもよい。その代わりに、もし豆が実らなかつたら、人間を食べるのは止めるのだ。どうだ、約束するか?」

鬼の親分は、笑いながら約束しました。「豆を実らすなど簡単な事。約束しよう」

そして神様から豆をもらった鬼の親分は、子分の鬼たちと畑を耕すと、豆をまいてたっぷり水をやりました。ところが、いつまでたっても芽が出てきません。

「おかしい。こんなはずでは・・・」鬼の親分は、神様のところへ行って尋ねました。

「あ、神様。もらった豆が変なんです。もしかして、豆が腐っていたのでは?」

「何を言うか。わしも同じ豆を畑にまいたが、ちゃんと育っているぞ。見てみるが良い」

鬼の親分が神様について行くと、そこには青々とした豆畑が一面に広がっていました。それを見て、鬼の親分は首を傾げました。

「おかしいな。なぜ、おれたちの豆は芽を出さないのである?」

「それでは、もう一度やってみるか?」鬼の親分は神様からもう一度豆をもらおうと、喜んで帰って行きました。実は、神様が鬼に与えた豆は、火にかけて炒った豆なのです。これでは、どんなに頑張っても芽が出るはずがありません。しばらくすると、また鬼の親分が神様のところへやって来ました。

「神様、豆がどうしても芽を出さないのです」「それは、お前たちが人間を食べたりするからだ。何なら、もう一度豆をやるか?」

神様が言うと、鬼の親分は首を振って言いました。「いや、もう豆を見るのも嫌じゃ。約束通り、人間は食わない。・・・だけど、道で転ぶほど弱った人間くらいは食わせてくれ。ただし、疲れて転んだ人間は食わんから」

鬼の言葉に、神様は少し考えてから頷きました。「よし、いいだろう」

そして鬼の親分が帰ると、神様は人間たちにこう言いました。「人間たちよ。もし道で転んだ時は、早口で『疲れた、休もう』と言うのだ。そうすれば、鬼が襲ってくることはない。それから、鬼は炒った豆が大嫌いじゃ。鬼が現れる節分の日は、炒った豆を鬼に投げつけてやるといい」

それから人間は、道で転ぶと、「疲れた、休もう」と言うので、鬼は手を出す事が出来なくなりました。そして、節分に炒った豆を鬼に投げつけるのも、この時からだそうです。

## 2月・3月の予定

2月 5日	異文化交流会	〔広島県〕	3月 4日	学習発表会	〔広島県〕
2月 13日	就職講座	〔広島県〕	3月 8日	社会見学会	〔高知県〕
2月 14日	社会見学会	〔岡山県〕	3月 未定	健康増進交流会	〔広島県〕
2月 15日	高齢者施設見学・交流会	〔岡山県〕			

### 投稿募集

あなたも「七色花」に記事を書いてみませんか? みなさんからの投稿を募集しています。内容は日々の生活の出来事や中国での思い出、わたしこんな特技がありま〜す、など何でもかまいません。原稿は400字程度で、持参、郵送、FAX、メールでお願いします。みなさまからの記事をお待ちしています。

### 編集後記

みなさんが日本に来て一番困っていることは、日本語ではないでしょうか。今回は、私が日本語を勉強している時に、言い間違っ笑われた話を紹介したいと思います。例えば「キャベツ」を「チャベツ」と言ったり、「ピーチ」を「ピンチ」と言ったり、「ひゃっくん」を「しゃっくん」とつい発音してしまいます。勉強は時に退屈だと思うこともあるかもしれませんが、こうした面白い発見をすることで、楽しく学ぶことができます。これからも継続して日本語を勉強していきたいと思っています。(松葉)

# 七色花

【发行者】  
中国·四国中国归国者支援·交流中心

社会福祉法人 广岛县社会福祉协议会  
〒732-0816 广岛市南区比治山本町 12-2  
TEL 082-250-0210  
FAX 082-254-2464  
E-mail chushikoku-center@festa.ocn.ne.jp

## 东广岛·福山社会观摩会 \* . . . \* . . . \* . . . \*



体验手画友禅  
(毛笔之乡)

12月7日(周五)以广岛县东广岛市和福山市的中国归国者为对象举办了社会观摩会。虽然同在广岛县内,但是这2市距离中心较远,所以这次专门带着这2地的归国者参观了毛笔之乡和大和博物馆。在毛笔之乡体验了手画友禅,在小布片儿上画好底稿后,再涂上颜色。大家认真的投入在其中,几乎忘记了时间。在大和博物馆,一方面感叹着高度的造船技术,同时也为在战争中失去年轻生命的将士而悲哀,借着这次观摩活动,让大家再度感受到和平的重要性,因此这是一次非常有意义的活动。



参观展示品  
(大和博物馆)

## 广岛县志愿者研修会 \* . . . \* . . . \* . . . \*

1月11日(周五)·18日(周五)两天,以广岛市立白岛小学校4年级学生为对象举办了志愿者研修会。会上由中国残留遗孤含泪介绍了自己当年如何在旧满洲成为孤儿的经历,之后,分组介绍了中国结的做法。已经是老奶奶的各位残留遗孤认真教会孩子们如何做中国结,天真烂漫的孩子们对各位残留遗孤也十分亲切。会后,孩子们还学说着中国话的「谢谢」前来道别。希望以这次活动为开始,今后能在归国者聚居地的学校开展同样的活动。



学做中国节时的情形

## 日语讲师研修会 \* . . . \* . . . \* . . . \*



1月20日(周日)·21日(周一)以中心日语老师为对象举办了日语讲师研修会。这次主要是以去年新开设的远程教学「说说聊聊话题」的讲座内容为主题,就中国语母语者容易出现的错误,以及针对归国者的教学方式等方面的注意事项进行了切磋交流。

针对「记不住」但是「日语学习有意思」的高龄者和「为了工作和孩子已经是竭尽全力了,没有充裕的日语学习时间」的年轻人各自的问题,各位老师不断的揣摩和探讨,给人留下了深刻的印象。

## 广岛县交流活动教室 \* . . . \* . . . \* . . . \*

12月17日(周一)·1月21日(周一)·28日(周一)以中心的学员为对象举办了皮革手工讲座。第1回学做了钥匙包,第2·3次学做了皮包。选好皮革后,再决定样式,之后再搭配适当颜色的线,大家学的其乐融融,时间眨眼就过去了。进行最后的缝合时,需要适当的力度,要想将针脚缝得平整,即使平时擅长针线活儿的人也大费了一番苦功。但是最终都完成了自己独一无二的精美作品,每个人都心满意足。



预先打好针眼



用专门的线进行缝合

## 关于节分的故事~通过日本的民间故事,向大家介绍“节分”时为什么要撒豆驱鬼~

很久很久以前,二月三日的节分并不像现在这样要撒豆驱鬼,到了那一天大家都要去神社或寺院参拜。可是,总有香客在半道被鬼怪给捉去吃掉了。这件事被神仙知道后,就将鬼怪的大王叫来了,对他说,「我听说你们总是把要到我这里来参拜的人给吃掉,这是怎么回事儿?」

「对,您说的没错。可是,鬼怪自来就要吃人的,如果吃别的东西,身体就没有气力。」鬼怪的大王回答道。

于是,神仙给了鬼怪大王一些豆子。

「那么这样吧,你把我给你的豆子带回去种下去。如果能结出豆子的话,那你们还可以照常吃人。可是,如果你们种下豆子结不出豆子的话,以后你们就不许再吃人了。如何?」

鬼怪大王觉得这有什么难的呢,就笑着答应了。

「种豆结豆再简单不过了,就这么说定了!」

于是,鬼怪大王带着神仙给的豆子回去后,和众小鬼们耕地种豆,浇水施肥。可是,豆子种下去后,干等也不见豆种发芽。

「不对劲儿呀,这么会这样呢...」

带着疑问,鬼怪大王去找神仙质问,

「神仙,您给我的豆子有问题,是不是您给我的豆子都是烂豆子呢?」

「哪有这回事儿,我和你种了同样的豆子,长得一点儿也没问题,不信你去看一看。」

于是,鬼怪大王跟着神仙去看神仙种的豆田,那里满地都是绿莹莹的豆苗,让鬼怪大王看了感到不可思议。

「这就奇怪了,为什么我们种的豆子就不发芽呢?」

「那你就再试一次吧!」

于是,神仙又给了鬼怪大王一些豆子,鬼怪大王兴冲冲的带着豆子又回去了。其实,神仙给鬼怪大王的豆子都是已经炒熟的豆子。把炒熟的豆子种下去,再怎么努力也不会发芽。于是,又过了一段时间,鬼怪大王又来到神仙那儿。

「神仙,您给的豆子怎么弄也不发芽呀!」

「那是因为你们老是吃人所以才会这样。要不然再给你一次豆子种种试试看吗?」

神仙刚说完,鬼怪大王摇摇头说,

「够了,够了,我看着豆子就厌恶。按照说好的,以后我们就不吃人了...可是,如果是衰弱到走路都会跌倒的人总该让我们吃了吧。但是,我们不会吃仅仅是累的摔倒的人,这样总可以吧!」

听完鬼怪大王的话后,神仙稍稍考虑了后就同意了。

「好吧!那就这么说定了!」

等鬼怪大王回去后,神仙就对世人说,

「众世人请听好了,如果你们在路上摔倒时,就马上说『累了、休息休息!』这样的话,鬼怪就不会来吃你们了。还有,鬼怪非常讨厌炒熟的豆子,每到节分有鬼怪出现时,你们就拿炒熟的豆子去往鬼怪身上扔,就没问题了!」

于是,世人就记住了每当摔倒时,就说「累了、休息休息!」

这样鬼怪就不能吃人了。

这就是为什么到了节分时,家家户户就会准备好炒熟的豆子来驱鬼的由来。

## 2月·3月预定 \* . . . \* . . . \* . . . \*

2月 5日	异文化交流会	[广岛县]	3月 4日	学习发表会	[广岛县]
2月 13日	就职讲座	[广岛县]	3月 8日	社会观摩会	[高知县]
2月 14日	社会观摩会	[冈山县]	3月 未定	促进健康交流会	[广岛县]
2月 15日	老人院观摩·交流会	[冈山县]			

### 征集投稿

您不希望把自己的文章登载在「七色花」上吗?在此向大家征集稿件,内容不限,可以是日常生活琐事,也可以是追忆往昔,或者是介绍专项所长。原稿的字数限400字以内,投稿可直接送到中心,通过邮寄、传真亦可。

期盼大家积极踊跃的投稿!

### 编辑后记

想必大家来到日本后,最苦恼的就是日语学习吧!这次,向大家说说我学日语时出的一些笑话。比如,想说把「キャベツ」(卷心菜)说成了「チャベツ」,「ピーチ」(桃子)结果说成了「ピンチ」(危机),还有把「ひゃっきん」(百元)说成了「しゃっきん」(负债)等等诸多笑话。学习起来难免会感到烦闷,但是偶尔出现一些这样的小插曲,多少会起一些润滑剂的作用。今后,我还会再接再厉努力的学习日语。  
(松叶)